

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【城南中学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	
思考・判断・表現	

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	＜学習上の課題＞これまでの「習得」量の少な さ、読解力の不足、小学校から中学校1年生まで の算数・数学の基礎・基本の徹底 ＜指導上の課題＞「教え方」から「学び方」への 移行、授業や放課後・家庭での「学習方法」の指 導、学習への意欲付け	⇒ ①「読書」時間の確保(年度当初から) ②「チャンスタイム」と「やり 直しテスト」によりテスト前後の学習を補完(1学期末テストから) ③「単元内個別進度学習」の指導計画への位置づけ(2学期以降) ④家庭学習の奨励と内容の強化・充実(夏季休業から) ⑤端末の ドリル教材の活用(1学期末から)
思考・判断・表現	＜学習上の課題＞「習得」量の少なさが「活用」 の難しさに直結、読解力が課題の把握に影響、発 想を形に整えることに苦戦 ＜指導上の課題＞「教え方」から「学び方」への 移行、授業や放課後・家庭での「学習方法」の指 導、学習への意欲付け	⇒ ①学級活動における「話し合い活動」を生徒指導だけでなく「協働 的な学び」に絡めて各教科で実践(1学期から) ②「単元内個別進 度学習」に「活用」を織り込んだ経験値アップ(2学期以降) ③思 考・説明等の外化のために語彙力アップと文章の要約の機会増(2 学期以降) ④評価語彙を駆使した相互評価による学び合いから 励まし合い磨き合いの経験を成功体験として位置づけ(2学期以 降)

⑤	評価(※)	学力向上策の実施状況
知識・技能		①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握) 職員会議・校内研修等
思考・判断・表現		

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	国語の平均点は大幅にアップしたが、今回の出題は「言葉の特徴や使い方」に特化しているため、特に「言葉」→ 「語彙数」「語意」「文の中での使い方」等を強化し、又から文章へと取り組みを進めたい 数学の平均点もアップが見られるが、「関数」「データの活用」が弱点であることから、文字式や方程式等の基礎を 徹底することを主に考えたい	
思考・判断・表現	国語も数学も全国平均値に迫っている 国語では「書くこと」に強みがあるものの、「話すこと・聞くこと」には課題があるのは日常の会話や伝達内容が上手 く伝わらない点と符合するので日本語のリスニングが必要なのだろう 数学の「関数」「データの活用」は習得した知識・技能の活かし方が課題なので、応用課題へのドリルの取り組みが求 められていると考える	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	
思考・判断・表現	

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	①昨年度までの時程表を改訂して「読書」時間を確保で きたので、今後は新聞を活用した要約の課題やお気に入りの本のポップづくり等も組み込む予定である ②「チャンスタイム」と「やり直しテスト」を定期テストに位 置付けたので今後は効果の検証に入る ③研究推進委員会を中心に「単元内個別進度学習」の指 導計画への位置づけを始めた ④家庭学習の奨励は今後の課題とする ⑤端末のドリル教材の積極的活用を開始した	これまでの取り組みを継続する → 指導訪問10月 「花笑み教育」に関わる連携 1 読解力 2 基礎学力(算数・数学)
思考・判断・表現	B	①特別活動部会と学校課題研究部会を中心に、学級活 動における「話し合い活動」を計画的・組織的に実践し始 め、「協働的な学び」に絡める準備を整えている ②「単元内個別進度学習」の取り組みを開始したが、「活 用」にあたる取り組みを具体的に織り込んだ計画は今後の 課題 ③思考・説明等の外化のために語彙力アップと文章の要 約の機会増は「知識・技能」の欄に記載 ④評価語彙の検討は3学期以後になる	これまでの取り組みを継続する → 特別活動部会研修研究授業会場 2月 「花笑み教育」に関わる研究授業(学活)

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)